

ウ 六条大麦（子実用）

(ア) 作付面積

六条大麦の子実用作付面積は1万8,200haで、前年産に比べ900ha（5%）増加した。これは、北陸地域等において他作物からの転換等があったためである（表2-1、2-2、図2-8）。

(イ) 10aあたり収量

10aあたり収量は287kgで、前年産に比べ6%上回った。これは、関東地域において出穂期以降の天候がおおむね良好であったためである（表2-1、2-2、図2-8、2-9、2-10）。

(ウ) 収穫量

収穫量は5万2,300tで、前年産に比べ5,300t（11%）増加した（表2-1、2-2、図2-8）。

図2-8 六条大麦の作付面積、収穫量及び10aあたり収量の推移（全国）

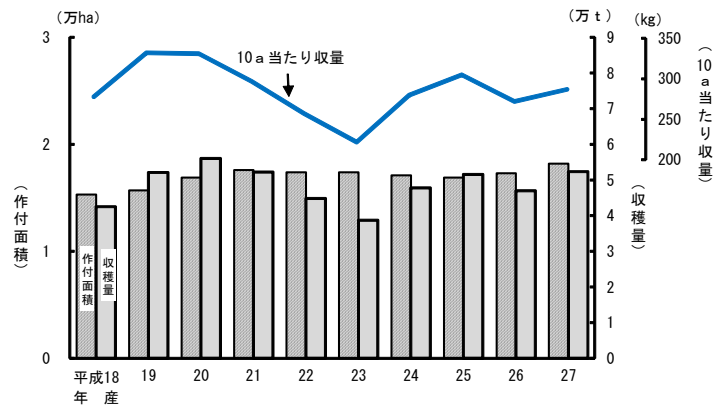


図2-9 平成27年産麦作期間の半月別気象経過（富山）

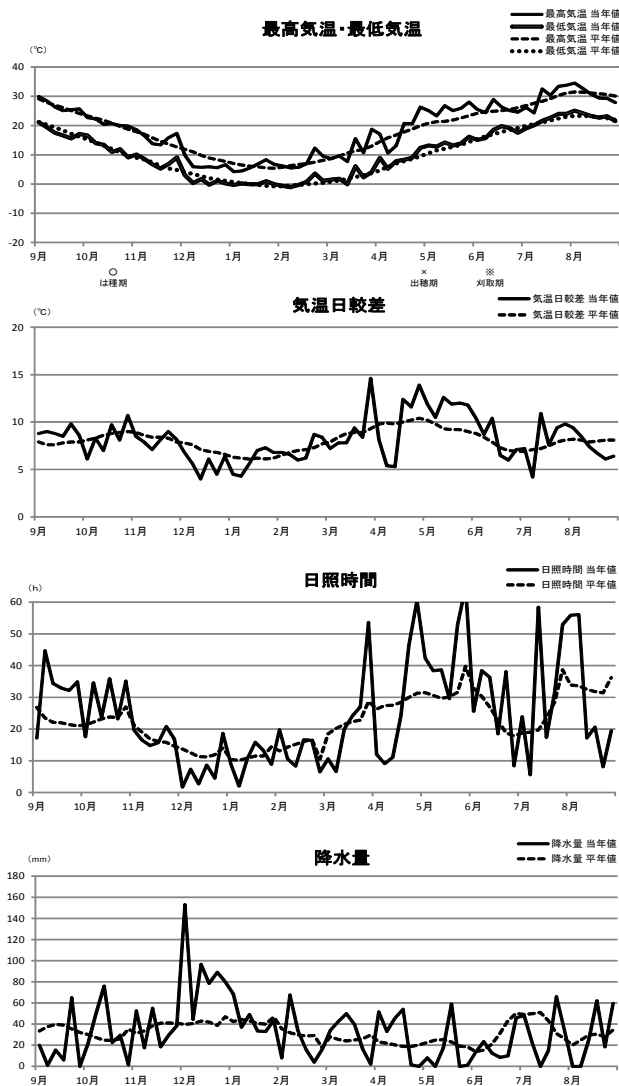
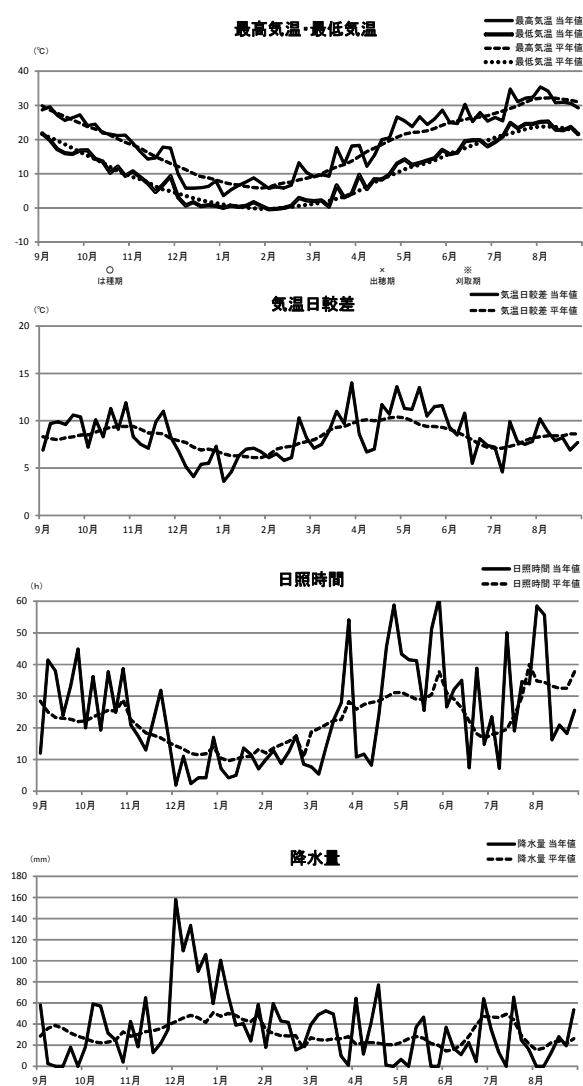


図2-10 平成27年産麦作期間の半月別気象経過（福井）



エ はだか麦（子実用）

(ア) 作付面積

はだか麦の子実用作付面積は5,200haで、前年産に比べ50ha（1%）減少した（表2-1、2-2、図2-11）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は217kgで、前年産に比べ21%下回った。

これは、愛媛県や大分県において、は種期の降雨による発芽不良、2月下旬から4月中旬にかけて降雨等の影響により分けつが抑制されたことに加え、登熟も不良であったためである（表2-1、2-2、図2-11、2-12、2-13）。

(ウ) 収穫量

収穫量は1万1,300tで、前年産に比べ3,200t（22%）減少した（表2-1、2-2、図2-11）。

図2-11 はだか麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

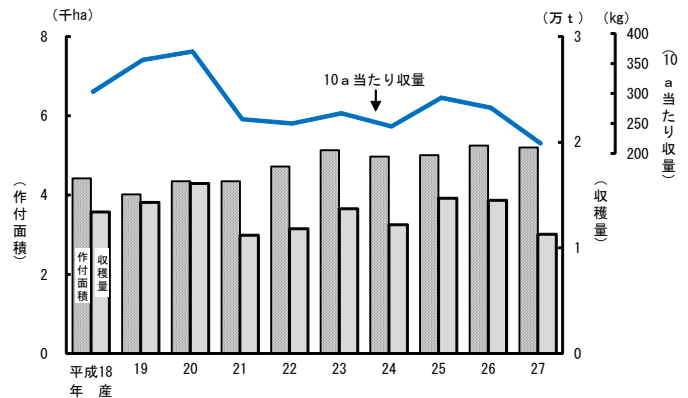


図2-12 平成27年産麦作期間の半旬別気象経過（愛媛）

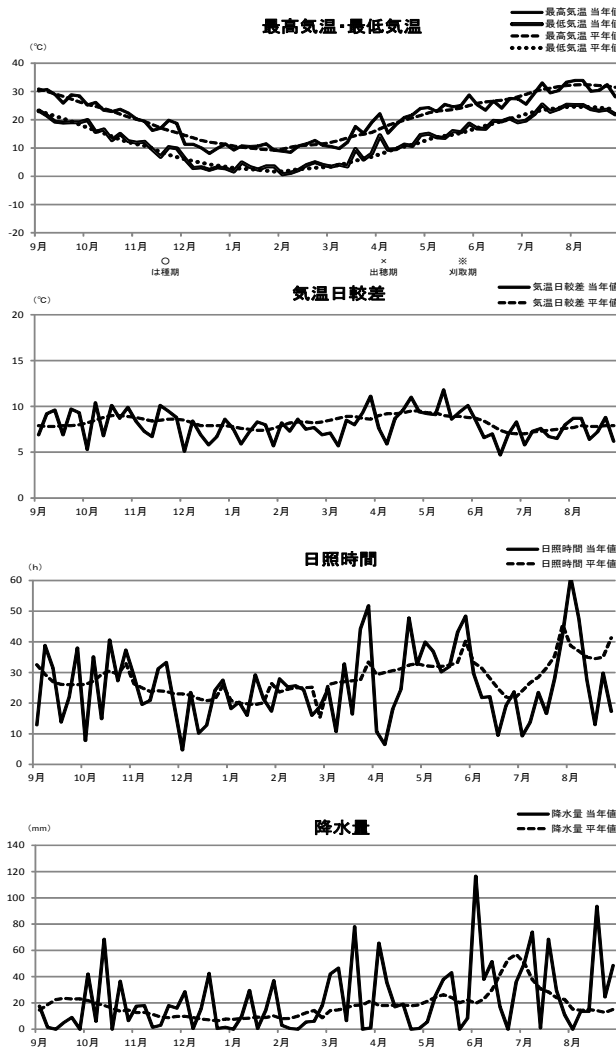
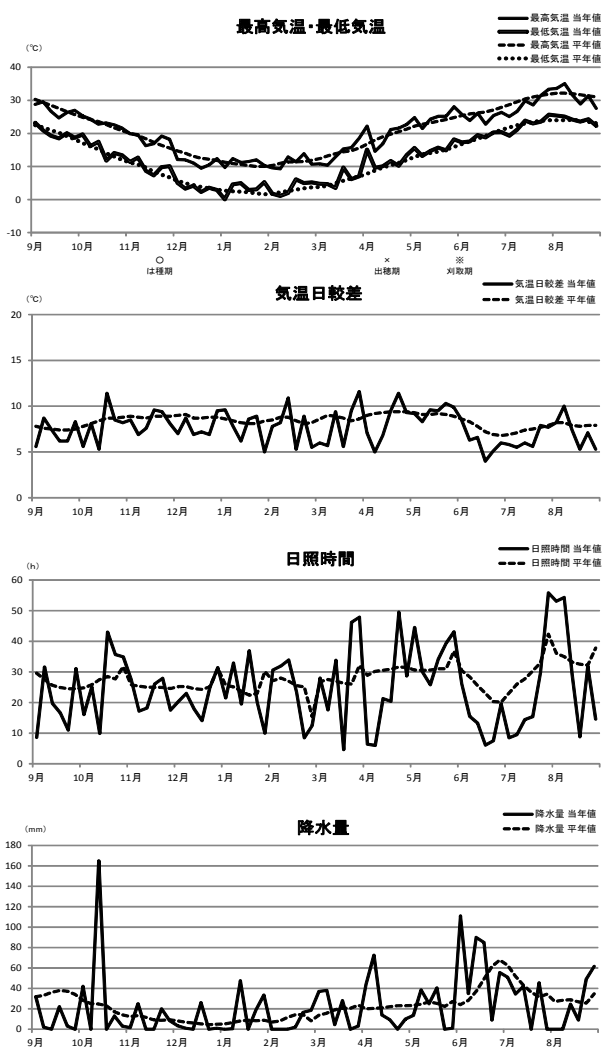


図2-13 平成27年産麦作期間の半旬別気象経過（大分）



3 豆類・そば

(1) 要旨

平成27年産の豆類（乾燥子実）の全国の収穫量は、大豆が24万3,100 tで、前年産に比べ1万1,300 t（5%）増加し、小豆が6万3,700 tで、前年産に比べ1万3,100 t（17%）減少した。いんげんは2万5,500 tで、前年産に比べ5,000 t（24%）増加した。らっかせいは1万2,300 tで、前年産に比べ3,800 t（24%）減少した。

また、平成27年産そばの収穫量は3万4,800 tで、前年産に比べ3,700 t（12%）増加した（表3）。

表3 平成27年産豆類（乾燥子実）及びそばの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10 a 当たり収量		収穫量		10 a 当たり平均収量対	10 a 当たり平均収量
				対差	対比	対比	対比	対差	対比		
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
大豆	142,000	171	243,100	10,400	108	97	11,300	105	99	172	
小豆	27,300	233	63,700	△ 4,700	85	97	△ 13,100	83	nc	…	
いんげん	10,200	250	25,500	940	110	113	5,000	124	nc	…	
らっかせい	6,700	184	12,300	△ 140	98	78	△ 3,800	76	nc	…	
そば	58,200	60	34,800	△ 1,700	97	115	3,700	112	105	57	

注：小豆、いんげん及びらっかせいの収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成27年産については全国の都道府県を対象に調査を行った。

(2) 解説

ア 大豆（乾燥子実）

(ア) 作付面積

平成27年産大豆の作付面積は14万2,000haで、前年産に比べ1万400ha（8%）増加した。

これは、水稻、小豆等からの転換があったためである（表3、図3-1）。

(イ) 10a 当たり収量

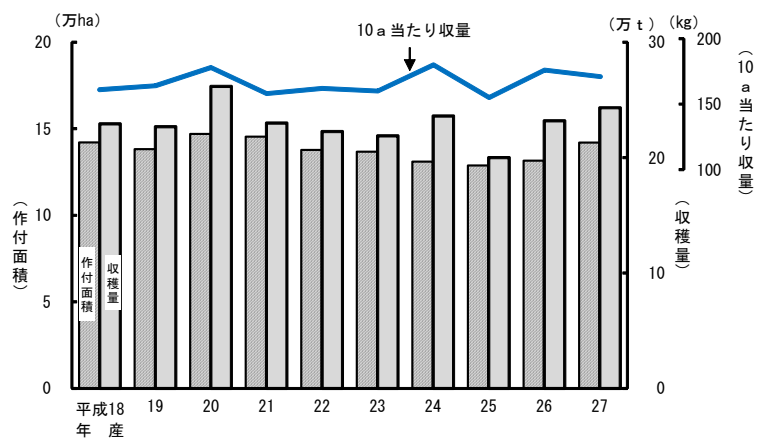
10a 当たり収量は171kgで、前年産に比べ3%下回った。

これは、関東地域において台風の影響により被害が発生したこと並びに東海以西において低温・日照不足等により生育及び登熟が抑制されたためである（表3、図3-1）。

(ウ) 収穫量

収穫量は24万3,100 tで、前年産に比べ1万1,300 t（5%）増加した（表3、図3-1）。

図3-1 大豆の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



イ 小豆（乾燥子実）

(ア) 作付面積

平成27年産小豆の作付面積は2万7,300haで、前年産に比べ4,700ha（15%）減少した。

このうち、全国の約8割を占める北海道の作付面積は2万1,900haで、前年産に比べ4,400ha（17%）減少した（表3、図3-2）。

(イ) 10a当たり収量

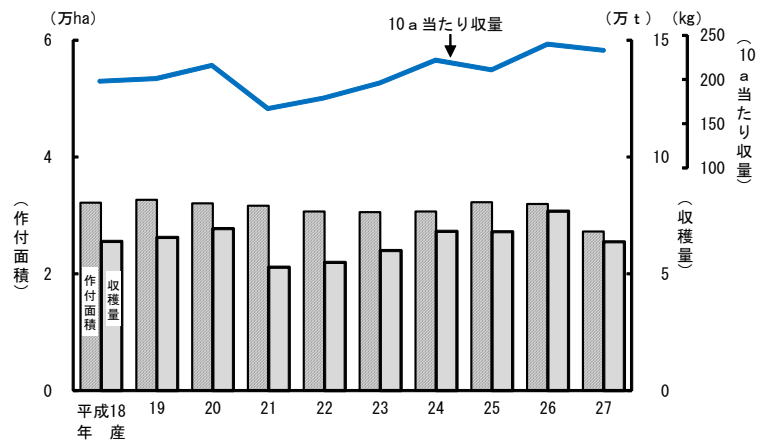
10a当たり収量は233kgで、前年産に比べ3%下回った。

これは、主産地である北海道において、おおむね天候に恵まれ生育が良好であったものの、作柄の良かった前年産を下回ったためである（表3、図3-2）。

(ウ) 収穫量

収穫量は6万3,700tで、前年産に比べ1万3,100t（17%）減少した（表3、図3-2）。

図3-2 小豆の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



ウ いんげん（乾燥子実）

(ア) 作付面積

平成27年産いんげんの作付面積は1万200haで、前年産に比べ940ha（10%）増加した。

このうち、全国の約9割を占める北海道の作付面積は9,550haで、前年産に比べ1,010ha（12%）増加した。

これは、小豆からの転換等があったためである。（表3、図3-3）。

(イ) 10a当たり収量

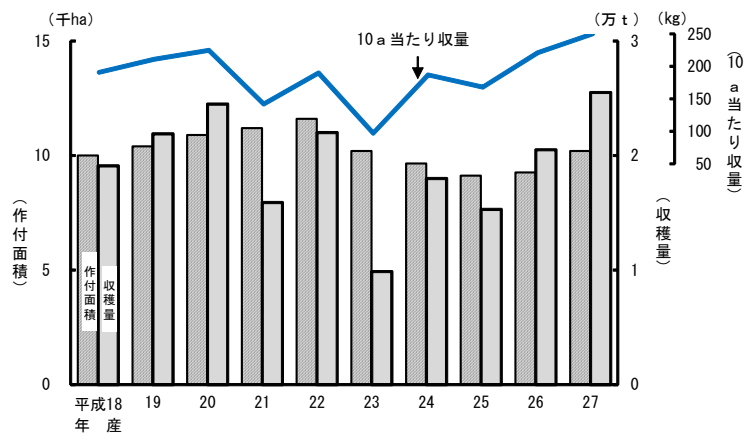
10a当たり収量は250kgで、前年産に比べ13%上回った。

これは、主産地である北海道において、おおむね天候に恵まれ生育が良好であったためである（表3、図3-3）。

(ウ) 収穫量

収穫量は2万5,500tで、前年産に比べ5,000t（24%）増加した（表3、図3-3）。

図3-3 いんげんの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



エ らっかせい（乾燥子実）

(ア) 作付面積

平成27年産らっかせいの作付面積は6,700haで、前年産に比べ140ha（2%）減少した。

このうち、全国の約8割を占める千葉県で作付面積は5,240haで、前年産に比べ60ha（1%）減少した（表3、図3-4）。

(イ) 10a当たり収量

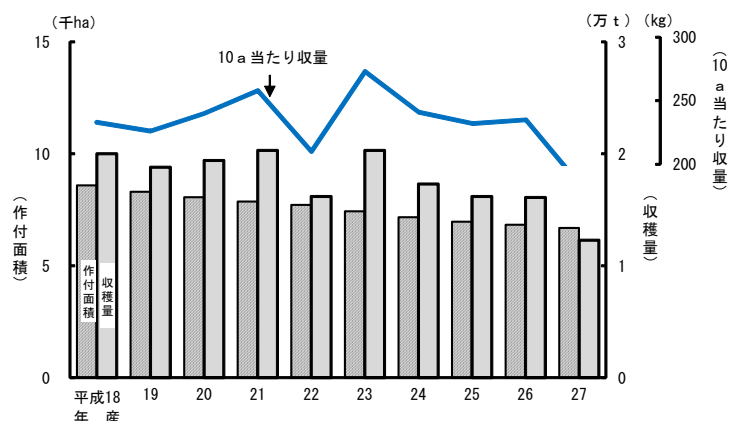
10a当たり収量は184kgで、前年産に比べ22%下回った。

これは、主産地である千葉県において、7月下旬から8月上旬までの小雨の影響等により、さや数が抑制されたことに加え、空さやの発生が多かったためである（表3、図3-4）。

(ウ) 収穫量

収穫量は1万2,300tで、前年に比べ3,800t（24%）減少した（表3、図3-4）。

図3-4 らっかせいの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



オ そば

(ア) 作付面積

平成27年産そばの作付面積は5万8,200haで、前年産に比べ1,700ha（3%）減少した。

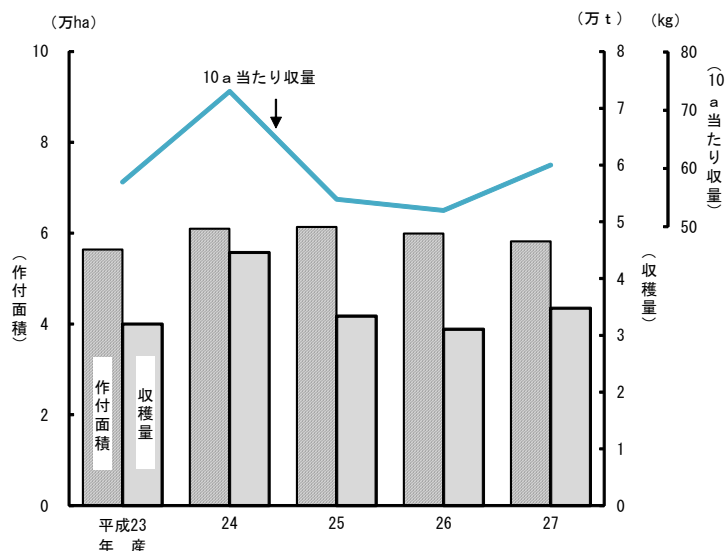
これは、他作物への転換等があったためである（表3、図3-5）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は60kgで、前年産に比べ15%上回った。

これは、北海道において生育期間を通じておおむね天候に恵まれ、登熟が良好であったためである（表3、図3-5）。

図3-5 そばの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(ウ) 収穫量

収穫量は3万4,800tで、前年産に比べ3,700t（12%）増加した（表3、図3-5）。

4 かんしょ

(1) 作付面積

平成27年産かんしょの作付面積は3万6,600haで、前年産に比べ1,400ha（4%）減少した。

これは、鹿児島県等において他作物への転換等があったためである（表4、図4）。

(2) 10a当たり収量

10a当たり収量は2,220kgで、前年産に比べ5%下回った。

これは、九州地域において6月から9月にかけての低温・日照不足等により、いもの肥大が抑制されたためである（表4、図4）。

(3) 収穫量

収穫量は81万4,200tで、前年産に比べ7万2,300t（8%）減少した（表4、図4）。

図4 かんしょの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

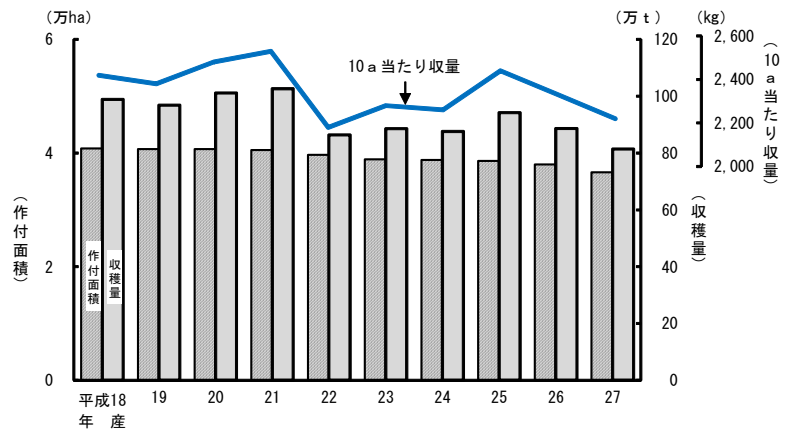


表4 平成27年産かんしょの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均収量 対	10a 当たり 平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比	%	kg	
全 国	36,600	2,220	814,200	△ 1,400	96	95	△ 72,300	92	94	2,370	
うち 茨城	6,700	2,470	165,500		20	100	95	△ 7,500	96	94	2,630
千葉	4,240	2,480	105,200	△ 50	99	98	△ 3,300	97	98	2,520	
静岡	661	1,620	10,700	△ 40	94	95	△ 1,200	90	98	1,650	
徳島	1,130	2,320	26,200		0	100	97	△ 900	97	95	2,430
熊本	1,070	2,220	23,800	△ 30	97	98	△ 1,200	95	98	2,270	
宮崎	3,440	2,470	85,000	△ 150	96	94	△ 9,100	90	95	2,610	
鹿児島	12,400	2,380	295,100	△ 1,000	93	95	△ 41,200	88	91	2,610	

注：かんしょの収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成27年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は、主産県調査結果と主産県以外の推計値を合算したものである。

5 飼料作物

(1) 牧草

ア 作付（栽培）面積

全国の牧草の作付（栽培）面積は73万7,600haで、前年産並みであった（表5-1、図5-1）。

イ 10 a 当たり収量

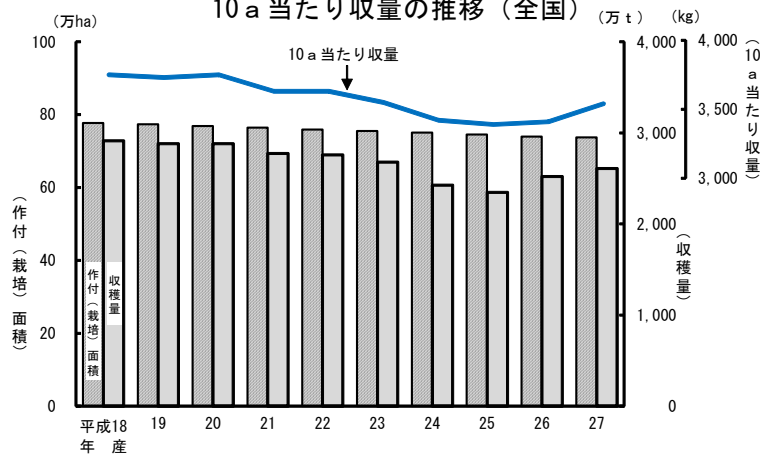
全国の牧草の10 a 当たり収量は3,540 kgで、前年産に比べ4 % 上回った。

これは、九州地域において低温、日照不足等の影響により生育が抑制されたものの、北海道等においておおむね天候に恵まれ生育が順調であったこと等による（表5-1、図5-1）。

ウ 収穫量

全国の牧草の収穫量は2,609万2,000 t で、前年産に比べ89万9,000 t（4 %）増加した（表5-1、図5-1）。

図5-1 牧草の作付（栽培）面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移（全国）



注：平成24年産及び平成25年産の10 a 当たり収量及び収穫量については、全国値の推計を行っていないため、主産県の合計値である。

表5-1 平成27年産牧草の作付（栽培）面積、10 a 当たり収量及び収穫量

区分	作付(栽培)面積 ha	10 a 当たり収量 kg	収穫量 t	前年産との比較				(参考)		
				作付(栽培)面積		10 a 当たり収量	収穫量		10 a 当たり平均収量対	10 a 当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比		
全 国	737,600	3,540	26,092,000	△ 2,000	100	104	899,000	104	99	3,560
うち北海道	540,500	3,340	18,053,000	△ 1,000	100	104	617,000	104	102	3,290

注：飼料作物の収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成27年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は、主産県調査結果と主産県以外の推計値を合算したものである。

(2) 青刈りとうもろこし

ア 作付面積

全国の青刈りとうもろこしの作付面積は9万2,400haで、前年産に比べ500ha（1%）増加した（表5-2、図5-2）。

イ 10a当たり収量

全国の青刈りとうもろこしの10a当たり収量は5,220kgで、前年産に比べ1%下回った（表5-2、図5-2）。

ウ 収穫量

全国の青刈りとうもろこしの収穫量は482万3,000tで、前年産並みであった（表5-2、図5-2）。

図5-2 青刈りとうもろこしの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

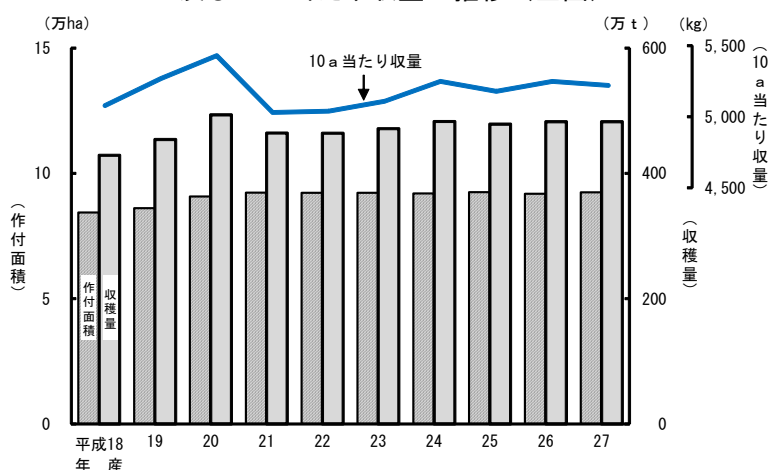


表5-2 平成27年産青刈りとうもろこしの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産との比較					(参考)		
				作付面積		10 a 当たり収量		収穫量		10 a 当たり平均収量対比	10 a 当たり平均収量
				対差	対比	対比	対比	対差	対比		
全 国	92,400 ha	5,220 kg	4,823,000 t	500 ha	101 %	99 %	△ 2,000 t	100 %	nc	…	
うち北海道	51,300 ha	5,610 kg	2,878,000 t	1,300 ha	103 %	99 %	38,000 t	101 %	103	5,430	

(3) ソルゴー

ア 作付面積

全国のソルゴーの作付面積は1万5,200 haで、前年産に比べ700ha（4%）減少した。

これは、他作物への転換等により減少したためである（表5-3、図5-3）。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,790kgで、前年産に比べ3%下回った。

これは、主に九州地域において、低温、日照不足等の影響により生育が抑制されたためである（表5-3、図5-3）。

ウ 収穫量

収穫量は72万8,600 t で、前年産に比べ5万9,300 t（8%）減少した（表5-3、図5-3）。

図5-3 ソルゴーの作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）

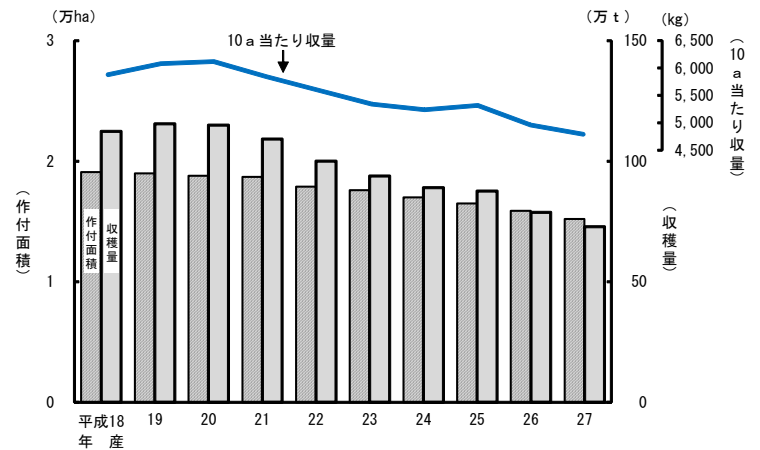


表5-3 平成27年産ソルゴーの作付面積、10a 当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10 a 当たり収量		収穫量		10 a 当たり平均収量対比	10 a 当たり平均収量
				対差	対比	対比	対比	対差	対比		
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
	15,200	4,790	728,600	△ 700	96	97	△ 59,300	92	88	5,460	

6 工芸農作物

(1) 茶

ア 栽培面積

平成27年の茶の栽培面積は4万4,000haで、前年に比べ800ha(2%)減少した(表6-1)。

イ 摘採実面積

主産県の茶の摘採実面積は3万5,600haで、前年産に比べ400ha(1%)減少した(表6-2)。

ウ 生葉収穫量

主産県の茶の生葉収穫量は35万7,800tで、前年産に比べ1万6,200t(4%)減少した。

これは、九州地域において生育期間全般の天候不順により、生育が抑制されたこと等による(表6-2)。

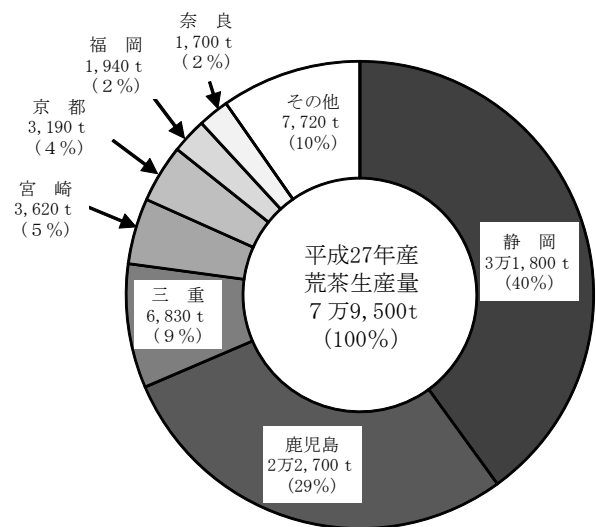
エ 荒茶生産量

主産県の荒茶生産量は7万6,400tで、前年産に比べ3,700t(5%)減少した。都府県別にみると、静岡県が3万1,800t(全国に占める割合は40%)、次いで鹿児島県が2万2,700t(同29%)、三重県が6,830t(同9%)となっている(表6-2、図6-1)。

表6-1 茶の栽培面積(全国)

単位: ha	
区分	栽培面積
平成26年	44,800
27	44,000
対前年比(%)	98

図6-1 荒茶生産量割合(主産県)



注: 数値については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

表6-2 平成27年の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量(主産県)

区分	摘採面積		10a当たり生葉収量			生葉収穫量			荒茶生産量		
	実面積	延べ面積	一番茶	二番茶		一番茶	二番茶		一番茶	二番茶	
	ha	ha	kg	kg	kg	t	t	t	t	t	
平成26年産	36,000	82,400	1,040	437	491	374,000	157,400	113,900	80,100	32,100	23,200
27	35,600	81,300	1,010	431	455	357,800	153,600	101,400	76,400	31,400	20,300
対前年産比(%)	99	99	97	99	93	96	98	89	95	98	88

注: 茶の収穫量調査は主産県調査であり、5年周期で全国調査を実施している。平成27年産については主産県を対象に調査を行った。

(2) なたね

ア 作付面積

平成27年産なたねの作付面積は1,630haで、前年産に比べ160ha（11%）増加した（表6-3、図6-2）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は194kgで、前年産に比べ60%上回った。

これは、北海道、青森県等の主産地において生育期間全般を通じて天候に恵まれ、登熟も良好であったためである（表6-3、図6-2）。

ウ 収穫量

収穫量は3,160tで、前年産に比べ1,380t（78%）の大幅な増加となった（表6-3、図6-2）。

図6-2 なたねの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

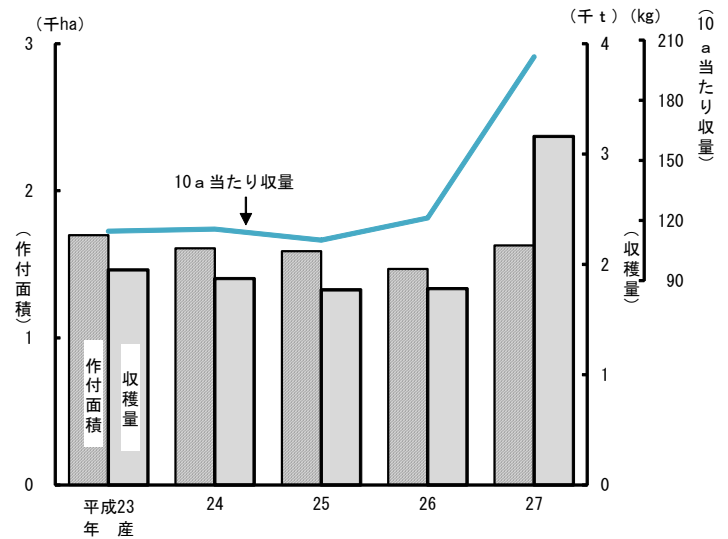


表6-3 平成27年産なたねの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a当たり収		収穫量		10a 当たり 平均 収 量 対 比	10a 当たり 平均 収 量
				対差	対比	対比	対比	対差	対比		
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全 国	1,630	194	3,160	160	111	160	1,380	178	152	128	
北 海 道	605	318	1,920	201	150	157	1,100	234	166	192	
都 府 県	1,020	122	1,240	△ 40	96	136	285	130	136	90	

(3) てんさい

ア 作付面積

平成27年産てんさいの作付面積は5万8,800haで、前年産に比べ1,400ha（2%）増加した（表6-4、図6-3）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は6,680kgで、前年産に比べ8%上回った。

これは、生育期間を通じて天候におおむね恵まれ、根部の肥大が良好であったためである（表6-4、図6-3）。

ウ 収穫量

収穫量は392万5,000tで、前年産に比べ35万8,000t（10%）増加した（表6-4、図6-3）。

図6-3 てんさいの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（北海道）

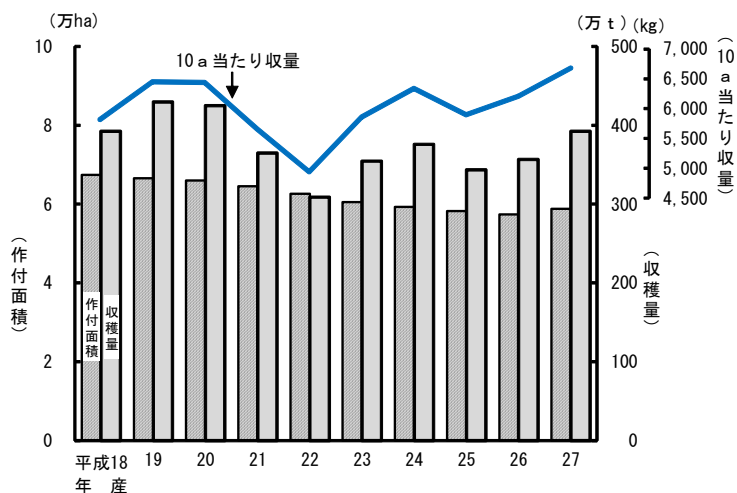


表6-4 平成27年産てんさいの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量		収 穫 量		10 a 当 たり 平均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平均 収 量
				対 差	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比		
北海道	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
	58,800	6,680	3,925,000	1,400	102	108	358,000	110	112	5,990	

注：てんさいの作付面積及び収穫量調査は、北海道を対象に行っている。

(4) さとうきび

ア 収穫面積

平成27年産さとうきびの収穫面積は2万3,400haで、前年産に比べ500ha（2%）増加した（表6-5、図6-4）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,380kgで、5月から9月にかけて、相次ぐ台風の被害等があったものの、作柄の悪かった前年産に比べ6%上回った。

なお、昭和49年以降で5番目に低い水準となった（表6-5、図6-4）。

ウ 収穫量

収穫量は126万tで、前年産に比べ10万1,000t（9%）増加した（表6-5、図6-4）。

図6-4 さとうきびの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移

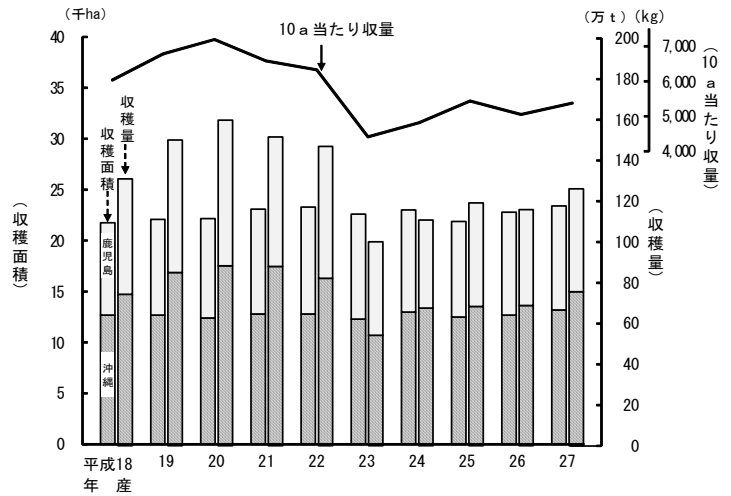


表6-5 平成27年産さとうきびの作型別栽培・収穫面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	栽培面積	収穫面積				10a当たり収量			
		計	夏植え	春植え	株出し	計	夏植え	春植え	株出し
	ha	ha	ha	ha	ha	kg	kg	kg	kg
全国 平成26年産	30,100	22,900	6,580	3,650	12,600	5,060	6,730	4,360	4,420
27	29,600	23,400	5,990	3,410	14,000	5,380	7,090	4,850	4,780
前年産との比較(%)	98	102	91	93	111	106	105	111	108
鹿児島島	11,900	10,200	1,270	2,040	6,860	4,950	6,620	4,960	4,660
前年産との比較(%)	101	101	71	93	111	106	113	112	107
沖縄	17,700	13,200	4,720	1,370	7,120	5,720	7,220	4,690	4,920
前年産との比較(%)	97	104	98	94	110	106	102	110	110

区分	収穫量			
	計	夏植え	春植え	株出し
	t	t	t	t
全国 平成26年産	1,159,000	442,900	159,300	557,100
27	1,260,000	424,900	165,400	669,700
前年産との比較(%)	109	96	104	120
鹿児島島	505,000	84,100	101,200	319,700
前年産との比較(%)	107	80	104	119
沖縄	755,000	340,800	64,200	350,000
前年産との比較(%)	110	101	103	121

注：さとうきびの作付面積及び収穫量調査は、鹿児島県及び沖縄県を対象に行っている。

(5) こんにゃくいも（全国）

ア 栽培面積・収穫面積

平成27年産こんにゃくいもの栽培面積は3,910ha、収穫面積は2,220haであった。

このうち主な産地である群馬県の栽培面積は3,390haで、前年産に比べ30ha（1％）増加し、収穫面積は1,930haで前年産に比べ80ha（4％）増加した。（表6-6、図6-5）。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は2,760kgであった。

このうち主な産地である群馬県のこんにゃくいもの10a 当たり収量は2,930kgで、前年産並みであった。（表6-6、図6-5）。

ウ 収穫量

収穫量は6万1,300tであった。

このうち主産地である群馬県のこんにゃくいもの収穫量は5万6,500tで、前年産に比べ2,300t（4％）増加した（表6-6、図6-5）。

図6-5 こんにゃくいもの収穫面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（主産県）

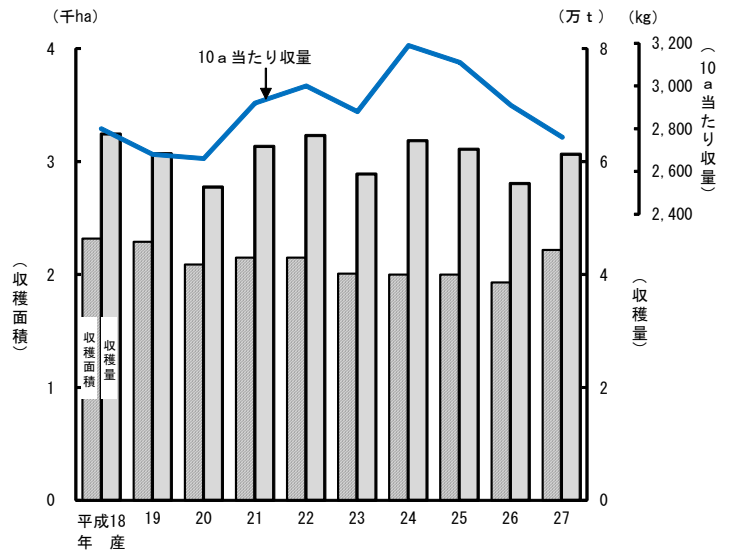


表6-6 平成27年産こんにゃくいもの栽培・収穫面積、10a 当たり収量及び収穫量

区分	栽培面積	収穫面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産対比								(参考)	
					栽培面積		収穫面積		10 a 当たり収量		収穫量		10 a 当たり平均収量対比	10 a 当たり平均収量
					対差	対比	対差	対比	対差	対比	対差	対比		
ha	ha	kg	t	%	%	%	%	%	%	kg				
全国	3,910	2,220	2,760	61,300	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	...	
主産県計	3,500	2,000	2,920	58,300	10	100	70	104	100	2,200	104	98	2,970	
栃木	105	68	2,630	1,790	△ 19	85	△ 6	92	102	△ 120	94	102	2,570	
群馬	3,390	1,930	2,930	56,500	30	101	80	104	100	2,300	104	98	2,980	

注：こんにゃくいもの作付面積及び収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成27年産については全国の都道府県を対象に調査を行った。

(6) い (主産県)

ア 作付面積

主産県（福岡県及び熊本県）の「い」の平成27年産作付面積は701haで、前年産に比べ38ha（5%）減少した。

これは、他作物への転換等により減少したためである（表6-7、図6-6）。

イ 10a当たり収量

主産県の10a当たり収量は1,110kgで、前年産に比べ19%下回った。

これは、2月上旬から3月上旬にかけての低温により、生育が抑制され茎数が少なくなったことに加え、6月以降の低温・日照不足等により茎の伸長が抑制されたためである（表6-7、図6-6）。

ウ 収穫量

主産県の収穫量は7,800tで、前年産に比べ2,300t（23%）減少した。

これは、作付面積の減少に加えて、10a当たり収量が前年産を下回ったためである（表6-7、図6-6）。

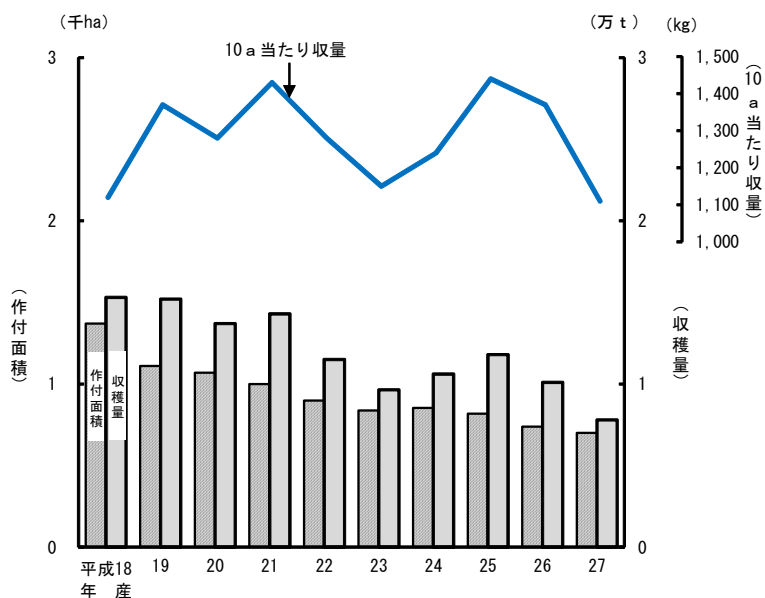
エ 畳表生産農家数及び畳表生産量

主産県の「い」の生産農家数は550戸で、前年産に比べ26戸（5%）減少した。

このうち、畳表の生産まで一貫して行っている畳表生産農家数は513戸で、前年に比べ47戸（8%）減少した。

なお、平成26年7月から平成27年6月までの畳表生産量は2,780千枚で、前年に比べ890千枚（24%）減少した（表6-7）。

図6-6 「い」の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（主産県）



ウ 収穫量

主産県の収穫量は7,800tで、前年産に比べ2,300t（23%）減少した。

これは、作付面積の減少に加えて、10a当たり収量が前年産を下回ったためである（表6-7、図6-6）。

エ 畳表生産農家数及び畳表生産量

主産県の「い」の生産農家数は550戸で、前年産に比べ26戸（5%）減少した。

このうち、畳表の生産まで一貫して行っている畳表生産農家数は513戸で、前年に比べ47戸（8%）減少した。

なお、平成26年7月から平成27年6月までの畳表生産量は2,780千枚で、前年に比べ890千枚（24%）減少した（表6-7）。

表6-7 平成27年産「い」の作付面積、10a当たり収量、収穫量等（主産県）

区分	「い」 生産 農家数	作付面積 ha	10a 当たり 収 量 kg	収穫量 t	前年産との比較					(参考)		畳表生産 農家数	畳表 生産量 千枚	
					作付面積		10a 当たり 収 量		収穫量		10a当たり 平均収量 対			10a当たり 平均収量 対
					対差	対比	対比	対比	対差	対比				
主産県計	550	701	1,110	7,800	△ 38	95	81	△ 2,300	77	84	1,320	513	2,780	
福岡	14	14	1,180	165	0	100	87	△ 24	87	93	1,270	10	43	
熊本	536	687	1,110	7,630	△ 38	95	81	△ 2,300	77	84	1,320	503	2,740	

- 注：1 「い」の収穫量調査は、福岡県及び熊本県を対象に行っている。
 2 「い」生産農家数は、平成27年産の「い」の栽培を行った農家の数である。
 3 畳表生産農家数は、平成26年7月から平成27年6月までに畳表の生産を行った農家の数である。
 4 畳表生産量は、平成26年7月から平成27年6月までに生産されたものである。